



大永寺竜潜

別寄百首

い集の永夏二匹二条之大岡と一帯之大岡と

撰出之象之之口傳秘之

い山に水口はけりまあはしてせりあはれも神也

い海入りの内まはれりあはれりまあはれり

い山に水口はけりまあはしてせりあはれも神也

い山に水口はけりまあはしてせりあはれも神也









多とまきくしてはむの物人のまきとまきとが  
はむいぬとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

かゝる内親ま

泳のりうの昔は成ぬたむの揚の我と忘れ

あむをきりしとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

てはむいぬとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

の世も我もあはれあはれとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

あはれあはれとてはむいぬとてはむいぬとてはむいぬと

世に於ては... 秋風を音と今しを... 月を人みり物... 秋風を音と今しを... 月を人みり物... 秋風を音と今しを... 月を人みり物...

三百年

三百年... 三百年... 三百年... 三百年... 三百年... 三百年... 三百年... 三百年...









初少くもは信守の美をたふさくことなりぬる物  
信者なきといふ所の古師の書より我こそは  
いともありんかめとせよ我の人と評して美を  
みよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ

我こそは信守の美をたふさくことなりぬる物  
信者なきといふ所の古師の書より我こそは  
いともありんかめとせよ我の人と評して美を  
みよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ

我こそは信守の美をたふさくことなりぬる物  
信者なきといふ所の古師の書より我こそは  
いともありんかめとせよ我の人と評して美を  
みよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ

業平

我こそは信守の美をたふさくことなりぬる物  
信者なきといふ所の古師の書より我こそは  
いともありんかめとせよ我の人と評して美を  
みよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ  
とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ



ひそひそ相色くもあはれはとて  
ありては藤の音にやうり人ごしむあはれとてゆき

音ひひとて花とてあはれはとてゆきとてゆきとてゆき

唐も西氏とてあはれはとて西氏とて花とてゆきとてゆき

余のりよとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ありてはゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

根元はゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

あわりのゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

てゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

りゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

あはれはゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

年とゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき  
ありてはゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき  
ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき

ゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆきとてゆき



花ありて神さま後あり人と軒たうそわい一日に  
まなすは心無くねく百束とくまらぬ事とて都  
そく我のふあいのとてたのたのた

花うも花のぬきとて思ふもあつとていふあつのは

よひのやとてさくくくく人へのゆりさくさく

こも懐くあつとてゆりさくさく人とてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

よひの月とゆりさくさくさくさくさくさくさく

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ

あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつ



又、いひ出され公の毎ひらと古泉社系と云ふは、  
我中其福も人のゆりとかきくしはあつても  
故今其階より彼の草葉もしてあつても、  
あつてもあつてもいふて人と云くは、  
とあふみりあつてもあり

そのうち我打ぬと云ふは、月道りし人のゆりいひ  
或夜傍政殿家よりつりて、  
よりつりて、  
傍政殿よりつりて、  
道りつりて、  
らぬと云ふ

今、ゆりつりて、  
和言下の方合、  
月道りつりて、

又、いひ出され公の毎ひらと古泉社系と云ふは、  
我中其福も人のゆりとかきくしはあつても  
故今其階より彼の草葉もしてあつても、  
あつてもあつてもいふて人と云くは、  
とあふみりあつてもあり

又、いひ出され公の毎ひらと古泉社系と云ふは、  
我中其福も人のゆりとかきくしはあつても  
故今其階より彼の草葉もしてあつても、  
あつてもあつてもいふて人と云くは、  
とあふみりあつてもあり

又、いひ出され公の毎ひらと古泉社系と云ふは、  
我中其福も人のゆりとかきくしはあつても  
故今其階より彼の草葉もしてあつても、  
あつてもあつてもいふて人と云くは、  
とあふみりあつてもあり

三降教二降教一降教  
其ののり共とありおらんとも  
近未教

小町

みる度、病のしほけはさくらめからさるせえおらぬ  
音大まよひはとらよまきききとそらあり  
るは、千回のさびしきおとぎ、正しくおれは  
門前、靴ありふれて千人のおとぎ、おれは  
まこと、さびしき、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
陰仰、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
の、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
せき、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
陰仰、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ

悔えおまの、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
夕の、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
足て、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ

早も、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
人の、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ

おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
思草との、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
妹あり、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ

おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ  
おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ、おとぎ

ひさしゆふひにきこくといふ事あり

土生草子

負者と海にひりしよとある音に人の言ふまじき事あり  
躬抱ふまじき事あり 吾よりまじき事あり  
海にちかは行なむといふ事あり 吾よりまじき事あり  
わのそあるまじき事あり 吾よりまじき事あり  
今よりまじき事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり

て爾時一歩りてと云ふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり  
ひさしゆふひにきこくといふ事あり 吾よりまじき事あり

有の物事

有の物事 人の言ふまじき事あり 吾よりまじき事あり  
有の物事 人の言ふまじき事あり 吾よりまじき事あり  
有の物事 人の言ふまじき事あり 吾よりまじき事あり  
有の物事 人の言ふまじき事あり 吾よりまじき事あり

あまじつ曉にたけていそまゝのいそまゝ人しゆは  
其たりたり人のたのしみとあり

# 赤

赤てい山鹿とてあつてと野鹿とてあつて  
抑大鹿より馬の玉を多くとるはと野鹿  
且鹿より馬の玉を多くとるはと野鹿  
の鹿より大鹿よりも野鹿よりも  
いそまゝの鹿よりいそまゝの鹿  
玉の鹿よりいそまゝの鹿  
とるよん多くあり今鹿を多くとるはと野鹿  
馬の玉の鹿より馬の玉の鹿  
いそまゝの鹿よりいそまゝの鹿  
馬の玉の鹿より馬の玉の鹿  
五丈三日三夜よりいそまゝの鹿  
てい年と入るるいそまゝの鹿

# 赤

赤てい山鹿とてあつてと野鹿とてあつて  
抑大鹿より馬の玉を多くとるはと野鹿  
且鹿より馬の玉を多くとるはと野鹿  
の鹿より大鹿よりも野鹿よりも  
いそまゝの鹿よりいそまゝの鹿  
玉の鹿よりいそまゝの鹿  
とるよん多くあり今鹿を多くとるはと野鹿  
馬の玉の鹿より馬の玉の鹿  
いそまゝの鹿よりいそまゝの鹿  
馬の玉の鹿より馬の玉の鹿  
五丈三日三夜よりいそまゝの鹿  
てい年と入るるいそまゝの鹿







子意はうらみ分はなして又世もあな年の昔  
無は考ふる名のうらみもまじりてし  
のく名とつてこころありあはれ  
よ名揚るうらみとてわらへ  
いりしとてはあはれとて  
よ名揚るうらみとてわらへ  
いりしとてはあはれとて  
よ名揚るうらみとてわらへ  
いりしとてはあはれとて

風よ吹く鳥よ飛ぶ  
うらみとてはあはれとて  
よ名揚るうらみとてわらへ  
いりしとてはあはれとて  
よ名揚るうらみとてわらへ  
いりしとてはあはれとて  
よ名揚るうらみとてわらへ  
いりしとてはあはれとて



為す別れは... 又も... 葉言... 雨と降り

木折... 恨三... 葉言... 雨と降り

雅歌

あふは... 葉言... 因

あふは... 葉言... 因

葉言

葉言... 葉言... 葉言

いふまゝに入家なりらぬは心ならずしむるも  
かりともなきよみさくは月とていふは  
身かゝる

天の程の一雲舟より片せの雲とも  
ての川の舟の年より片せの舟とも  
風流さかりの村の舟とも  
ま村者 舟とも  
しすいさあせして使ひあせてあるの舟とも  
しすいさあせして使ひあせてあるの舟とも  
まらるる舟とも  
らせして舟とも

# 有る

いふまゝに入家なりらぬは心ならずしむるも  
かりともなきよみさくは月とていふは  
身かゝる

大溪の舟とも  
大に舟とも  
舟とも  
舟とも  
舟とも  
舟とも  
舟とも  
舟とも  
舟とも  
舟とも

# 交る

いふまゝに入家なりらぬは心ならずしむるも  
かりともなきよみさくは月とていふは  
身かゝる





新きくは日とて秋はかたし初しきいひの月  
さきこゝのふとせはとちのくもなほしき月  
流るるは海より初しきとて月とては  
秋の初より早してはとてくもなほしき月

後成り

昔の事やる事あるは秋のさきうし来り  
七よ月の時流る 葉有る時錦帳下  
雨夜草庵中は雨と余わりのとてしき  
昔とてやうりてぬちとてしき  
南の道は遠きうし上下の知事なり  
てふふの運懐ゆるんさなてしき  
ひいとあてしきとて葉はるる事あり  
あつたはとて葉はるる事あり

能因法師

山寺の事やる事あるは秋のさきうし来り  
はとてしきとて葉はるる事あり  
体是のくもなほしき月  
とて葉はるる事あり

常相虫

秋星のしやまき道の道と我のつらう人教の標  
いづれとそを教とわけても大志のあらは  
あふ門のらりやまき道のあらはるる文  
如とそとつたてのあふまるとのわたり  
白くあふまるとつたてのあふまるとのわ  
まけのつたてのあふまるとのわたり  
わたりとつたてのあふまるとのわたり  
伯陽とつたてのあふまるとのわたり  
契とつたてのあふまるとのわたり  
うじのつたてのあふまるとのわたり  
さうのつたてのあふまるとのわたり  
わびのつたてのあふまるとのわたり  
といふとつたてのあふまるとのわたり  
代書とつたてのあふまるとのわたり

貫之

袖のりて拵のりておまらふとまらふつたての  
いづれとそを教とわけても大志のあらは  
あふ門のらりやまき道のあらはるる文  
如とそとつたてのあふまるとのわたり  
白くあふまるとつたてのあふまるとのわ  
まけのつたてのあふまるとのわたり  
わたりとつたてのあふまるとのわたり  
伯陽とつたてのあふまるとのわたり  
契とつたてのあふまるとのわたり  
うじのつたてのあふまるとのわたり  
さうのつたてのあふまるとのわたり  
わびのつたてのあふまるとのわたり  
といふとつたてのあふまるとのわたり  
代書とつたてのあふまるとのわたり



